

センターだより滋賀

滋賀県立精神保健福祉センター

Tel 077-567-5010 Fax 077-566-5370
〒525-0072 滋賀県草津市笠山八丁目4番25号
<http://www.pref.shiga.lg.jp/e/seishinhoken/>

平成29年3月

第20号


目次

- 社会的に不利な状況におかれた子ども若者支援に係る公開講座……………1
- 「若者サミット」を開催しました！……………2
- H28年度滋賀のみんなでつくる精神保健医療福祉チーム 育成研修会報告……………3
- 若年層の自殺予防教育についての研修を実施しました……………4

社会的に不利な状況に置かれた子ども若者支援に係る公開講座 報告 思春期青年期のネット・ゲームへの依存

思春期公開講座を行いました！

センターでは、社会生活を円滑に営む上での困難を有する、子ども・若者を支援するために広くこの問題についての知識・技術を身につけ、地域における子ども・若者の抱えている課題を共有し、それぞれの支援機関の役割と連携の在り方を考えることを目的に研修を行っております。とりわけ、近年注目が高まっている、子どもや若者のインターネットゲーム依存、インターネット環境の課題について、研修会を行いました。

日時		場所	参加者
11月8日(火) 13:30~16:30	思春期青年期のネット・ゲームへの依存 ～家族・支援者の関わりについて～ 独立行政法人国立病院機構 久里浜医療センター 前園真毅氏	滋賀県庁新館7階 大会議室	108名 

ネット長時間利用による健康被害

IT機器の1時間以上の使用から、両眼視の異常が出て、3時間以上になると多くの生徒が何らかに異常をきたしているという報告がなされました。子どもでは、スポーツ外傷の増加や、大人は運転での追突事故の可能性もあります。

各地の取り組み

○セルフディスカバリーキャンプ

○兵庫県では、IT機器の使用に時間制限を明記するように求めた条約の制定

○熊本県では、生徒自身でLINE使用のルールを作成

高校生が中学生にLINEを含めたネット使用のワークショップを開催

ネットやゲーム依存に対する予防や対応

○生徒自身で調べ、発表するグループワークの活用

○大人も夜間布団に持ち込まない、食卓に持ち込まない、眼を視て話す

○乳幼児、低学年は、しない時間を習慣訓練「ナイトレ」

○中学生⇒小3,4年、大学生⇒中高生、就職相談室・就労支援系会社⇒大学生、

ITセキュリティー関連会社等⇒会社が指導するネット教育

○デジタルデトックス（キャンプなど）の導入



日々の生活の中から、工夫していきたいと思えます



「若者サミット」を開催しました！

(平成28年度子ども・若者支援を考える公開講座第5回)



近年、子ども・若者を取り巻く環境は大きく変化し、さまざまな問題を抱えて、社会的に不利な状況におかれている子どもや若者が、少なくないことが指摘されています。当センターでは、支援について理解を深めるため、平成26年度より“社会的に不利な状況におかれた子ども・若者支援を考える公開講座”を開催しています。

公開講座第5回となる「若者サミット」も今年度で3回目の開催となりました。今年度は、若者が希望を持てる社会を、若者も支援の実践者も協同して創っていききたいというメッセージを込めて「～ともに描こう、若者みらい地図～」のテーマで、様々な活動の報告などを行いました。

平成29年1月28日(土) 10:15～16:00 栗東文化芸術会館さくら

第1部 講演「若者目線で!!～ひきこもり・若者支援マッププロジェクト～」

講師 泉翔氏(「社会的」ひきこもり・若者支援近畿交流会副代表、NPO法人ウィークタイ代表理事)

第2部 実践報告「若者支援inしが」

& みんなでディスカッション「ともに描こう、若者みらい地図」

ファシリテーター 岡部茜氏(立命館大学大学院博士課程)

報告者 ひきこもり・若者支援マッププロジェクト 滋賀チーム

あいとうふくしモール

一般社団法人セレンディップ

NPO法人元気な仲間

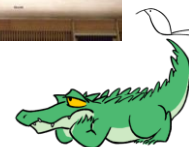


前半の講演では、NPO法人ウィークタイの泉翔氏より、ご自身の不登校・ひきこもりの体験から支援者になった思いや、ひきこもり経験者が就労後にゆるくつながる居場所づくりの実践の紹介が行われました。また「社会的」ひきこもり・若者支援近畿交流会の「ひきこもり・若者支援マッププロジェクト」についてもご紹介いただきました。支援が途切れることなく、つながるということをサポートする取組は、若者が安定した生活を維持するために必要不可欠な取組であることを強調されていました。

後半の実践報告&みんなでディスカッションでは、若者の課題は社会全体の課題であり、若者支援は社会全体のために必要であること、若者支援をさまざまな分野とリンクさせるなど、柔軟な発想を持って広げていこうと話がありました。

別室では、若者主催の“カードゲーム大会”が行われ、若者たちで盛り上がりました。

70名を超える参加者があり、若者支援を協同して創っていくことについて考える機会となりました。



平成 28 年度滋賀のみんなで作る精神保健医療福祉チーム (中核的人材) 育成研修会 報告

各圏域において、病院・地域の精神保健医療福祉関係者、当事者、行政担当者等がそれぞれの専門性と役割を理解するとともに多職種連携強化、精神保健医療福祉チームづくりをすすめ、精神障害者の入院から地域移行、地域での安定した生活をネットワークにより支援できる体制をつくることを目的として、前年度に引き続き2回目の研修会を開催しました。



日 時：平成 28 年 12 月 22 日（木）13:30～16:30

会 場：滋賀県立男女共同参画センター（G-NETしが） 大ホール

参加者：79 名

内 容：＜講義・演習＞

「多職種チームによる実効性ある地域支援体制づくり ～病院と地域がつながるために～」

講師 特定非営利活動法人じりつ 代表理事 岩上 洋一氏

＜甲賀圏域・湖東圏域における多職種連携・ネットワークづくりの取り組みの報告＞

滋賀県甲賀健康福祉事務所 保健師 田村 奈那子さん

地域生活支援センターまな 精神保健福祉士 岩下 友香さん

＜グループワーク＞

コーディネーター：龍谷大学社会学部地域福祉学科 教授 荒田 寛氏

地域移行支援・地域生活支援の実践者であり、地域移行を推進するための仕組みづくりに向けての政策提案もされている講師による講義・演習をとおして、全国的な動向や制度から「今、なぜ地域移行支援に取り組む必要があるのか」を改めて考えるとともに、「入院期間の違いによる当事者の（退院への）思いの変化」、「支援者の所属・立場が異なると何を優先して考えるかが異なること」を実感しました。

また、甲賀・湖東圏域の取組の報告については、それぞれの圏域でのネットワークづくりに向けて、新たな視点や手法を知ることができたとの感想が寄せられました。

アンケートで回答いただいた「重要と感じた Key Word」としては、「患者を中心とした連携と（保健医療福祉の）相互理解」、「ピアサポーター育成・ピアサポート活動の充実」、「目標設定・実効性・評価」が多数みられました。

講師の岩上氏からは「多職種連携・ネットワークづくりが目的ではない。ネットワークづくりから次のステップへ・・・具体的に地域移行支援が動き出すことを期待する。」との熱い言葉を、コーディネーターの荒田教授からは「滋賀県では、まず、病院と地域がつながること＝ネットワークづくりから始めよう！というところから始まり、ここまで来たのは大きな前進。次の段階に向けて、一緒に取り組む基盤づくりができてきたことを糧とし、少しずつ具体的な事例での実践を・・・」との励ましの言葉をいただきました。

県内では、徐々に広がってきつつある障害当事者によるピアサポート活動の連携強化とその経験や支援力の活用・協働をめざして、滋賀県ピアサポートネットワーク（仮称）設立への動きが進められており、3月には記念フォーラムも開催されます。こうした大きな動きとも連動し、当事者と支援者によるチームづくり・協働が進められるよう、情報提供や研修等による支援を行っていきたいと思います。

若年層の自殺予防教育についての研修を実施しました

日時：平成29年1月13日（金）13:30～17:00

講師：四天王寺学園小学校中学校カウンセラー阪中順子氏

テーマ：「学校における自殺予防教育」

参加者：25名 《教育分野（中学、高校、専門学校）10名、保健福祉分野15名》

児童生徒の自殺は、自殺者全体の1%（未成年で2%）ではあるが、子どもの自殺対策を行うことは、今の自殺を防ぐとともに将来にわたる自殺を少なくすることにも繋がります。また思春期特有の悩みや自立に向けた成長過程であるがゆえに相談することを難しくさせている現状があるようです。学生の自殺の背景には安心感の持てない家庭環境があり、孤立感、無価値観、強い怒り、絶望感などから心理的視野狭窄に陥り自殺に至ることがあるようです。

そのような生徒に対しどのような危機対応ができるのかをグループワークで意見交換したりロールプレイで良い聞き手になることの大切さを具体的に学びました。相談を受けた人が1人で抱え込まないように、丸投げも丸抱えもしない関わりのできるように、普段からたくさんの人と連携をとり、問題が起こった時は全体で対応できる雰囲気にしておく事が大切であるとの話もありました。

学校における自殺予防教育は、援助希求の重要性を学び、身近で支えてくれるところを知るという目的で実施されており、海外の自殺予防教育も参考にプログラムが作られていました。オーストラリアの自殺予防教育では、教職員の幸せという項目もあり、関わる側のメンタルヘルスも大切にされていることが印象的でした。

全体を通したアンケートや感想から、普段の業務で学校と行政（保健福祉）の連携の難しさを感じていたことがよく



わかりました。今回の研修では、1つの机に教育分野と保健福祉分野の職員が1名ずつ座る配置にしたことで、グループワークやペアワークで意見交換する時間が持てたことから、連携のきっかけとなり、お互いの分野について少し理解ができたと思います。学校側では対応に苦慮する生徒をどこにつなげれば良いのかわからないとの声や、福祉分野では学校の中がどのような状況か見えないとの声もあり、今回の研修で少し理解が深まったように感じました。この研修での学びや成果を今後の取組につなげていきたいと思っています。若年層の自殺対策についてさらに他機関と連携し推し進めていきたいと思っています。

3月は自殺対策強化月間です

「変化に気づく」「耳を傾けねざらう」「支援先につなげる」「温かく見守る」周囲に困っている人がいたらまず声をかけることから始めましょう。

平成29年3月4日～3月24日、滋賀県立図書館で「自殺対策強化月間資料展示」を行いました。たくさんの方に自殺対策について知ってもらう機会となりました。



気づき

- ・ 家族や仲間の変化に気づいて、声をかける。

傾聴

- ・ 本人の気持ちを尊重し、耳を傾ける。

つなぎ

- ・ 早めに専門家に相談するよう促す。

見守り

- ・ 温かく寄り添いながら、じっくりと見守る。

